（様式第1号）

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票（評価対象年度：令和7年度）

施　設　の　名　称	宮城県こもれびの森森林科学館
指 定 管 理 者 の 名 称	株式会社ゆめぐり
施 設 所 管 部 課 (室)	環境生活部　自然保護課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期　　間	管理形態	指定管理者（管理受託者）の名称	摘 要
～　平成20年　3月	管理委託	栗原市花山	
平成20年　4月　～　平成23年　3月	指定管理者	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会	
平成23年　4月　～　平成28年　3月	指定管理者	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会	
平成28年　4月　～　令和　3年　3月	指定管理者	特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会	
令和　3年　4月　～　令和　8年　3月	指定管理者	株式会社　ゆめぐり	
令和　8年　4月　～　令和13年　3月	指定管理者	株式会社　ゆめぐり	

※ 管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名　称	株式会社　ゆめぐり
	所在地	宮城県栗原市志波姫新熊谷279番地2
指　定　期　間	令和　8年　4月　1日　～　令和13年　3月　31日　(　5か年)	
募　集　方　法	■　公募　□　非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施　設　の　名　称	宮城県こもれびの森森林科学館	
所　在　地	宮城県栗原市花山字草木沢角間10－7	
設　置　年　月	平成　5年　4月	
根　拠　条　例　等	県民の森等の施設及び管理に関する条例	
設　置　目　的	森林や自然環境に対する県民の関心の高まりや、自然とのふれあいを求める人々が増加してきている中にあって「こもれびの森」は、スギ等の人工林や樹齢200年以上のブナ・ミズナラ天然林をはじめ、多くの動植物が生息・生育する豊かな森林である。 森林科学館は、このような「こもれびの森」を背景にした、自然環境や森林・林業についての正しい知識・理解を身に着けるための学習機能と森林レクリエーション機能を併せ持つ、県北の拠点施設である。	
施　設　の　内　容	敷　地　面　積	森林科学館等541．91㎡、湿性植物園等12，987㎡
	構　　造	森林科学館：木造平屋、湿性植物園：池及び観察路等
	内　　容	森林科学館 デイキャンプ施設 湿性植物園 山菜、野草見本園
開　館　(　所　)　日	4月1日～11月30日（無休）	
開　館　(　所　)　時　間	午前9時00分～午後4時30分（4月～10月）、午前9時00分～午後4時00分（11月）	
指 定 管 理 者 が 行 う 業　務　の　範　囲	(1)森林科学館等の運営業務に関すること (2)森林科学館等の維持管理業務に関すること (3)施設利用に関すること (4)入園者の拒否等	
利　用　料　金　制	採 用 の 有 無	□ 有　■ 無
	利 用 料 金 の 名 称	入場料は無料だがクラフト体験、野外炊飯プロパンガス使用は実費徴収

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和7年度) (A)	前 年 度 (令和6年度) (B)	評価対象年度 (令和7年度) (C)		
開館(所)日数	244 日	244 日	244 日	100.0%	100.0%
延べ利用者数	4,000 人	1,928 人	1,630 人	40.8%	84.5%

※ 対象施設が複数ある場合は施設ごとに記入

(2) 延べ利用者数の内訳

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和7年度) (A)	前 年 度 (令和6年度) (B)	評価対象年度 (令和7年度) (C)		
一般入館者	3,240 人	1,236 人	1,233 人	38.1%	99.8%
団体利用	600 人	563 人	332 人	55.3%	59.0%
自主事業(フォレストクラブ)	90 人	63 人	36 人	40.0%	57.1%
特番事業(クラフト教室)	70 人	66 人	29 人	41.4%	43.9%
合　　計	4,000 人	1,928 人	1,630 人	40.8%	84.5%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入　　(単位:千円、%)

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和7年度) (A)	前 年 度 (令和6年度) (B)	評価対象年度 (令和7年度) (C)		
県指定管理料	8,132	8,132	8,132	100.0%	100.0%
利用料金収入	360	327	146	40.6%	44.6%
その他	0	1	4	-	400.0%
収 入 計 (a)	8,492	8,460	8,282	97.5%	97.9%

(2) 支出

人件費	5,150	5,272	5,861	113.8%	111.2%
施設管理費	1,469	1,098	761	51.8%	69.3%
事業運営費	1,733	1,910	893	51.5%	46.8%
その他	140	177	70	50.0%	39.5%
支 出 計 (b)	8,492	8,457	7,585	89.3%	89.7%

(3) 収支

収　支 (c)=(a)-(b)	0	3	697	-	23233.3%
前期繰越収支差額	0	0	3	-	-
次期繰越収支差額	0	3	700	-	23333.3%

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲

自主事業の収支実績	収入	支出	収支	備考
	146	70	76	自主事業に係る資材費･保険料等

6. 評価対象年度（令和7年度）の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

主な視点	項　目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	評価	県の評価 【施設所管課記入】	評価
経済性	施設・設備の維持管理業務の実施	・計画的に長期管理、中期管理、短期管理を立て関係期間と協議しながら施設の修繕を行います。 ・設備の日常点検に努め早期に発見修繕を行い管理運営にあたります。 ・専門業務、法令等にて定められている管理項目については委託対応し万全の体制で利用者を受け入れられるよう施設設備を管理していきます。	・修繕については宮城県の担当課と協議し計画的に修繕を行っていただけるよう要望しました。 ・本年度はシャッターの不具合があり担当課に相談しました。 ・その他の不具合箇所についても、速やかに報告しました。 ・日常点検を実施し適正に対応しました。	A	館内の清掃が行き届き、管理施設の保守点検が日常的に行われ、館内の展示物や設備機器も適正に管理し、経済的な施設運営に大きく貢献しており、高く評価できる。 発見した異常や修繕必要箇所については、引き続き情報共有を行うとともに、施設の状態把握に努められたい。	A
	収支実績	・上記記載の計画のとおり	・収支は、当初予定を上回る結果となりました。 ・人件費は最低賃金の変更により当初予定を上回りました。 ・昨年同様、施設管理費の見直しにより経費を削減することが出来ました。	B	前年度に比べ人件費が上がり利用料金収入が減少したが、施設管理及び事業運営の支出を削減することで収支実績を大幅に高めることができた。 利用料金収入及び事業運営費の減少は、利用者数の減少にも直結しており、収支のバランスを確保しながら経済性の向上に努められたい。	B
効率性	管理運営体制	館長を1名選任し管理運営を行う。 勤務は交代制として常に2名配置。	勤務は交代制において2名配置し、常に来場者の対応、施設の管理を実施しました。令和7年7月より阿部さんを館長、加藤さんを館長補佐に配置し、管理運営にあたりました。	B	施設の規模や立地環境（奥山で携帯電話が通じずクマが生息など）から2名配置は必須であり、交代制により職員が施設管理及び各種事業等に鋭意取り組んでおり、適正な管理運営がなされていることは評価できる。	B
	人員体制	正規　1 人　非正規　7 人				
	運営業務（ソフト事業等）の実施	・展示案内（森の四季、ジオラマ、野鳥） ・クラフト活動 ・野外活動	・展示品をはじめ、野外の動植物についてスタッフが説明、案内を実施しました。 ・新しいスタッフにはこれまでの従事していたスタッフが指導し適切に対応できるよう指導いたしました。 ・本年度も、地元有識者の協力のもと野鳥エリアの充実を図りました。	A	スタッフ間の引き継ぎがしっかりと行われることで管理運営に支障を発生させないとともに地元有識者との関係を密に図り施設の充実をはかっていることは高く評価できる。	A
有効性	利用実績	・上記記載の計画のとおり	・利用実績は昨年を下回り、計画に対しても未達となりました。 ・自主事業やイベントについても募集を下回る事業が多くなり、改善をしてまいります。 ・10月11月は全国で熊出没があり、利用者減少の要因となりました。	B	クマの生息する奥山に立地していることからも利用実績は減少する結果となった。次年度は広報周知等に取り組み、立地条件をプラスに変えられる改善策の検討に努められたい。	B
	利用者サービスの向上	・利用者からのご意見を基に不具合があれば早急に改善してまいります。 ・営業広告活動をし、認知度を高めます	・こもれび通信及びホームページにてPRを実施しました。 ・更新回数を増やし、最新情報を提供しました。	A	インターネットを活用した情報の発信や施設からのお知らせ（チラシ）を定期的に発行し、近隣施設に掲示を依頼するなど利用者のニーズを的確に捉え、創意工夫を凝らした取り組みを展開している点は高く評価できる。	A
	利用者の苦情、要望等の把握とその反映	アンケートを用紙による実施。	・アンケートを実施、苦情等はありません。 ・アンケート実施件数が少ないため、来年度は増やしたいと考えております。	A	アンケートの実施により利用者の満足度等を調査し、利用者サービスの向上に取り組んでいる点は高く評価できる。	A
その他	県民の平等利用	・特定の個人、団体、グループに対し有利になったり、不利になったりするような取扱いを行わない。 ・施設利用者が設置目的を逸脱した利用をしないよう確認する。	・適正に対応しました ・入園拒否者はいませんでした。	B	適正な対応により入園拒否者が出ることなく平等な利用が確保できた点は評価できる。	B
	安全対策	・防災訓練の実施（年2回） ・緊急対応の知識の習得 ・施設賠償保険に加入 ・危険鳥獣、植物、昆虫に対する対策の実施 ・危険個所の把握、点検	・防災訓練を実施 ・危険個所について把握し利用者の危険を事前に排除しました。 ・天候などに配慮し適切な指導及び対応を実施しました。 ・駐車場利用に関しても不法駐車の注意喚起をし、事故等が無いように管理しました。 ・新たに熊対策を実施しました。	A	奥山に立地している環境から山林特有の危険への対策が講じられており、特にクマ対策に係る緊急時の連絡体制が整っている点は高く評価できる。	A

主な視点	項　　目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	評価	県の評価 【施設所管課記入】	評価
その他	個人情報の保護	・第三者が勝手に閲覧することができないように管理します。 ・個人情報保護条例に基づき個人情報を適正に管理します。 ・パソコンからの情報漏洩しないようにウイルス対策を行います。	・適正に管理しました。 ・パソコン、ネットワークについては、専門とする業者の指導のもと適正に対応しました。	A	得られた個人情報は、ウイルス対策を講じたり専門の業者の指導を受けるなど、適正な環境下で取り扱われており、高く評価できる。	A
	自主事業の実施	①自然観察トレッキング ②キッズチャレンジ 3回実施 ③イワナのつかみ取りに挑戦 ④紅葉トレッキング ⑤藍染に挑戦(2回) ⑥植菌に挑戦 ⑦水鉄砲作り ⑧ウグイス笛作り ⑨竹ポックリ作り ⑩巣箱作り	・多くの自主事業を計画したが、思うような集客に至りませんでした。 ・本年度は全国各地で熊の出没が相次いでいたため、客足が遠のきました。 ・紅葉トレッキングは熊出没を懸念し中止しましたが、実施したすべての事業は事故なく開催できました。 ・来年度は、利用者増に向けて更に事業を増やしてまいります。	A	開催したすべての自主事業を事故なく行えたこと及び安全を第一に優先し中止を判断したことは評価できる。今後は、参加者の安全に配慮しつつ、様々な状況下でも開催できるような事業のバリエーションの検討に努められたい。	B
	その他の取組	・資材の再活用(リサイクル)に努めてまいります。	・物品については丁寧に取扱いし、できうる限りリサイクルに努めました。	A	資材・物品等の効率的な有効活用に取り組んでいる点は高く評価できる。	A
総　合　評　価			当社において指定管理受託5年目となりました。自主事業については利用者が減少したものの実施することができました。ポスターチラシ配布や、ホームページに最新情報を載せ、PRを実施してまいりましたが利用者増加には至っておりません。今後も更なるPRに取組んでまいります。本年度は熊出没に悩まされる年となり、利用者数にも影響が及びました。引き続き熊対策を講じながら利用者の安全を第一に管理運営を行っていきます。	A	利用者の安全を第一に趣向を凝らした事業が企画されるとともに適切な施設の管理運営が行われており、高く評価できる。 今後とも当該施設の認知度を高めるための様々な媒体の活用に努められたい。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評　価	評　価　の　考　え　方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評　価	評　価　の　考　え　方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項　　目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	・利用者増に向けてのPR ・携帯電話不感地帯の解消が必要 ・猪対策(猪被害により自生植物が破壊される) ・施設の案内看板の整備	・指定管理者と協力して様々な媒体の活用を図り施設をPRする。 ・緊急時等に備え、携帯電話不感地帯の解消が図られるように指定管理者と対策を検討する。 ・有効な獣害対策に向けた検討を指定管理者と行う。 ・案内看板等の老朽化した施設は、指定管理者と協議の上、順次修繕を検討する。